

「大崎市がどういふふうになったのか」

「市長になって大崎市をどんなふうにしていくのか」

平成18年12月23日(土) a.m.10:00~

於 馬放公会堂

おはようございます。お世話になっております。今日はお招きをいただいて一緒にふれあいの集いを楽しみにお邪魔させていただきました。

区長さんから、明美ちゃんからお忙しい中って言われたんですが、本当に忙しいのにはびっくりするんですが、こんなに忙しいんだったらもう少し考えれば良かったかなと、2,3回思ったことのないわけではないんですが、幸い丈夫な体と、夢や希望がいっぱいある大崎市ですので、それをはりにして、夢を実現することを喜びにしながら、忙しくて難儀なことがいっぱいあるんですが、毎日市長職を務めさせていただいております。

今日ご無沙汰しっぱなしですので、ふれあいの集いで一緒に皆さんと久しぶりにふれあいをさせていただくと同時に、今日は古川市から大崎市へということでもありますので、大崎市がどういふふうになったのか、市長になって大崎市をどんなことをしていくのかということを少しご理解をいただいて、大先輩方からのご指導をいただければなと思ってお邪魔させていただきました。

3月31日に大崎市が誕生して、私も県政の仕事をして19年させていただいておりますが、ふるさとで働くようにということで、市長の選挙をさせていただき、皆さんのお陰様で初代市長の仕事をしていただいております。冗談とも本気ともこの大変さを申し上げましたけれども、まずどう変わって、これからどのように変わっていかうとしているのか、この機会に皆様方にご理解をいただきたいと思っております。旧古川市は25年に合併しました。25年の12月15日ですか。何回か段階を経たわけですが、旧古川市が誕生しました。それから時代とともに旧古川市が大きくなって、合併前で7万ちょっとの町でありました。人口の上では丁度倍の14万の市になりました。大崎市はご覧のとおり、旧古川と旧玉造郡全部鳴子と岩出山それと旧志田郡三本木と松山と鹿島台、それと旧遠田郡から田尻だけということで、これもどこまで合併するかということで、いろんなチャンスが何回かあったんですが、結果としては一市六町が合併しました。いずれそう遅くない時期に大崎地方全部がもう一度次のステージで、先行した加美だとか、色麻だとか今回入らなかった涌谷、美里(小牛田、南郷)ですね、ここなんかも一緒になって大崎全体になりますと約23万人になりますけれども、近い将来、ここは一つになるべきだと思っておりますが、折角合併したり、独立したり、俺は独自の道を行くと宣言して、すぐ次の年というわけにはいきませんので、次のステージだいたい10年を目途になるだろうと思っておりますが、早い時期に大崎は一つになるべきだと思いますが、当面はこの一市六町で新しいまちを創っていかうということになります。人口で旧古川の倍、面積で800km²といいますと、旧古川の丁度7倍くらいになります。一番広いのは、旧鳴子、この大崎市全体の3分の1を鳴子が持っておりますので、山形県境、秋田県境から大変に広い鳴子を含めて、大崎市がなりました。ただ広くな

ただだけでなく、ここはちょっと特異な地形でありまして、西の端から東の端に非常に長い地形でありまして、丁度日本列島を横にしたような、あるいはヨーロッパのイタリアという国があるんですが、長靴のような国なんですが、ローマなんかあるとこですね、ここと似てるんでありまして、そこを横にしたようなところで、一番奥ということになりますと、鳴子の中山平ですとか、鬼首の岩入というところがあるんですが、山形県境、秋田県境なんですが、ここから一番東端というと田尻の大貫、蕪栗沼辺りなんですが、一番南になりますと鹿島台の志田谷地、品井沼だったところですね、松島境、ここまで一番長いところで80kmあります。ですからこの古川を起点にすると白石に行くぐらいあるんですね。車で歩きますと2時間かかりますので、新幹線古川駅から東京に出張で出発しますと、2時間ちょっとでいきますから、時間距離でいうと東京に行くぐらいの間を朝、鳴子で第1回目の会合をやって、お昼鹿島台だとか田尻だとか古川に戻って、又今度岩山に行くとかで、難儀だと思っていることはまず移動に時間がかかります。でくるくる回れるのと違って大崎市の場合は行ったところを戻るようなコースですので、非常に距離感を感じております。難儀だと思えば難儀、ゆっくり歩くと非常にいいところなんですが、忙しく8時半から5時までの勤務時間の中で、いろいろな役所が動いたり、団体が動いている時間の中で会議で移動しようということになりますと、この移動時間の口スは改めて広いなと思っておりますが、しかしそれだけ広くて長い大崎市ですので、今度合併したことによって、いろんな旧古川時代に無かった全国に誇れるような素晴らしいいろんな宝や素材、資源がいっぱいありますので、折角皆さんが苦勞して合併したわけですから、将来に向けて夢や希望をいっぱい実現していくような大崎市を創りたいと思っております。明治時代に馬放や狐塚などが合併して富永村ができて、昭和になって古川市が出たように、たいてい合併というのは今まで60年単位ぐらいで日本の場合できているようですから、今大崎市がスタートするということは、毎日毎日毎年毎年皆さんの暮らし向きをどうするかということをやることと、50年60年先のスパンでどういう大崎市を創るのかということの二つの物差しが、大崎市の仕事をしていく時、大事だと思います。毎日毎日仕事をしていくための医療・保健・福祉のサービスをどうするか、あるいは仕事をしていくための環境をどうするか、子供たちが勉強していくための教育環境をどうするかということの、毎日毎日の身近なことをしっかりどの町にも負けないようなサービスを提供していくということが一つと、今申し上げましたような50年、60年単位で日本の場合は市町村合併が繰り返されておりますので、そういうスパンで、物差しで、この大崎市を全国で一番、日本で一番いい町にしていくような努力目標をさせていただきたいと思っております。ただ50年60年を視野に入れるといっても、なんぼ私が丈夫だといっても50年60年も先まで市長をやっているだけの体力と生命力はないはずですが、ただ政治もまちづくりも駅伝競走と同じで、自分が与えられた期間全力投球して、次の世代に託していくということで駅伝競走と同じで、みんなで走るんだから俺だけ、俺の区間だけなまけっぺと思っても勝てません。人それぞれの与えられた区間を全力でお互いに一番を目指して、区間優勝目指して引き継いでいくのが、まちづくりなんだろうと思っておりますので、私は大崎市のトップ第1区を任せられました。全力疾走して成果が上げれば2区も走れといわれるか、3区まで走れといわれるか、なんだか問題あるから1区でやめろといわれるか、これは私自身の努力と皆さんのご支援だと思いますので、全力で今申し上げた毎日毎日の課題と将来に向けてのまちづくりの道筋を折角合併して、これだけ大きくて広くていろいろな多様性を持っている大崎市ができたので、日本一の大崎市を創りたいと思っております。そのために

この大崎市にどれだけお互い今まで古川のことはある程度わかっていたと思いますが、よその町のことをこの際知り合うことなんですね。結婚でも友だち関係でもそうですけれども、相手のことをよく知るところからスタートなんです。悪いとこばかり見てますと夫婦仲も悪くなりますし、友だち関係もおかしくなります。いいところを探し会うというところから市町村合併も結婚と同じですから、いいところを探すと。できるだけ悪いところは結婚式のスピーチでよくいわれるんですが、恋愛中はしっかり目をあいて両目で相手を見ると、結婚したら片目つぶれとよくいうんですが、弱冠結婚してからでもやあやああずごど一緒になるのはいやだったなとっている人は一部にいます。もう合併したわけですから、お互いにいいところを認め合って、そしてそれを支え合っていくことをみんなでやろうということにしています。

大崎の宝さがしをやろうということで、それでおおさきブランド戦略会議ということで各地域でこのまちの宝をみんなで探しましょうということで、宝さがしをしております。

来年度から公民館事業だとか学校だとか老人クラブにも手伝っていただいて、いろんな宝を探そうということで、長岡の公民館で私が呼びかけようと思っていたら、いち早く鎌田館長さんが同じことをやってくれました。あるいは鹿島台商業の子供たちが大崎が合併したからということで、自分達で大崎を訪ねて歩こうと、大崎のいいところを探そうということで、探したらいっぱい宝が出てきたということで、こんなにいい宝がありますから是非皆さん大崎に来て下さいということで、それを商品化したんです。旅行社でないの、それをパンフレットにして仙台の駅なんかに入ったんですね。是非大崎を見に来て下さいと。そうしましたらJTBさんという日本で一番大きな旅行会社の仙台支店がのってきて、市長がやったり、観光協会がやるんだったらそれほど珍しくないけれども、高校生が、鹿島台商業の1年生の子供たちが、今度合併した大崎市を自分達も歩いてみてこんなにいいものがあるから、私達だけでこんなにいい宝を見るのはもったいないから、是非見に来て下さいということで、仙台、県内の方々に呼びかけをしました。

10月1日・2日、私もいきを感じて、鳴子にいて、初めて参加し方々に一杯ずつ酒をついで、是非ファンになって下さい。この次は家族で来て下さいということでご案内しました。普通旅行というと鳴子にいてどんちゃん騒ぎして帰って来るというコースですが、その高校生の方々が作ったのは、大崎まるごと体験ツアーといって大崎の歴史や文化、農業を体験したりいろんなところを2日間まるごと体験です。田尻に行ってハムづくりしたとか、稲刈り体験したとか、いろいろなところを散策してみるとか、いろんなところをまるごと体験しました。そして今年、鳴子のツーリズム研究会、旅行ですね、鳴子の旅行研究会というところが総務大臣表彰というのをいただいたんです。ここは最近、東鳴子なんかでやっているんですが、たんぼ湯治、ただお風呂にはいるだけでなく、連泊してただ泊まっていると体がなまってしまうばかりで、退屈しますから、日中ですね、農家体験しませんか、それを皆さんにやりませんかといったら、家で農作業しているだけで大変なのに、なんで鳴子に来てまで畑の仕事しねぐねんだということで、受け付けてもらえませんか。ところが、都会の方々はこの企画をしたらもう大変に殺到しまして田植えしたり、稲刈りしたり、あるいは田の草取りしたり、その農業体験をしながら鳴子の泊まって、金を払って鳴子に湯治して、金を払って稲刈り体験して、そういう企画したら地元の方はそんなごどしたって、誰、農業わざわざ仙台の方から、東京の方から来てやるひといつかっていたそうなんですが、実際やってみましたら、首都圏の方からドット来て、そういうことをやったら、今年総務大臣表彰をもらったんです。あるいは、田尻の蕪栗沼という沼があります。

まで声をかけたときに、どごさあんだその沼はという程度でほとんど知られていない小さな沼だったんです。今、全国的に、あるいは全世界的に有名になった沼なんです。これはラムサール条約という自然環境が保全されているところということを認めていただいたラムサール条約に登録されて、そこにマガンを中心に渡り鳥ガンだとか白鳥だとかが来て、来る数が去年の冬で7万8千羽、今年は10万羽超えるだろうといわれてまして、今、日本で最も渡り鳥から日本一住みやすいところだと、居心地のいいところだと認定をされたところなんです。これが、内閣府という官邸を護っているお役所なんです、ここから今年この地方に、蕪栗沼の周辺に7万8千羽も来るわけですから、ちゃっこい沼ではとても生息できません。で、田尻の大貫の蕪栗地方の方々が、それならばということで辺りの田んぼに水を張って、冬水田んぼというものを作ったんですね。どうぞこっちに来て下さい。狭いでしょうからこちらの沼で休んで下さいということで、田んぼに水を張りましたら、マガンというのは、1日10kmから20kmくらい移動距離があるそうですから、だいたい蕪栗沼に来た渡り鳥が、12km四方といわれておりますけれども、大崎地方の東部の方を勿論この辺まで来ますよ。大崎の東部地方をぐるっと、あるいは一部河南町辺りまでいくかもしれませんね。あるいは登米郡の一部まで行ってくると思いますが、大崎地方の東部の方を飛んであるって、落ち穂を食べたり、食べ物を食べて、又夜になると蕪栗沼周辺に戻るんですね。そして田尻の皆さん方にこんなにもてなしてもらうからということで、鶴の恩返しではないんですけれどマガンの恩返しで、濃厚な糞を一杯田んぼにおろしていただいて、そしてこれを田尻の方々は冬水田んぼ栽培、冬期たん水栽培といって、化学肥料を使わないで、農薬を使わないで、昔の自然農法、全くの自然農法をやりましたら、これが健康にいい、アトピーにいいということで、去年3万5千円だったのが、今年1俵5万円位の値が付いているんです。こういう栽培をしているところがあったり、これも内閣府から全国のモデルになって下さいということで、体験をさせていただきました。あるいは先日、一月前くらいなんです、西古川駅JRさんが小さな旅ツアーというのをやって、西古川駅に県内から集まって下さい。で西古川駅から歩いていける距離、実際は西古川の方々が乗用車や、ワゴン車を提供してくれたんですが、歩いていける範囲を訪ねてみませんかということで、安国寺だとか、あの辺のところを見て農家の体験をしたんです。これも大好評で、今まで自然だとか、あるいは田んぼだとか山だとか、おらほには何もありません。田んぼしかないんです。あるいは山しかがいんと。いっていたのが、私達から見ればそれほど価値のあるものでないと。ただだと思っているものが見る人が見れば、大変な宝だと思っただけを見るために、体験するためにお金を払って全国から集まることを、皆さんにいまいったようなことを通しながら、再発見させていただきました。

そういうことでこの際、もっともっとみんなで宝を探してみようということで、みんなで宝さがしをさせていただいているんですが、これを是非来年度の事業に、大崎はこんなに宝がありますよというのを改めて探検をして、それを例えば人物シリーズだとか、歴史シリーズだとか、食べ物シリーズだとか、地域資源シリーズだとか、いろんなシリーズごとに分類して、全国に発表しようということ、場合によってはギネス登録にもやろう、世界遺産登録なんかにやろうと、全国に大いに売ろうと、特に売るチャンスが、再来年の10月から12月にかけて、丁度今の時期なんです、JRさんが宮城県を集中的に全国に売ってあげますと。いろんなキャンペーン、デェストネーションキャンペーンというんですが、目的地に向かって訪ねていこうということなんです、宮城県に2年後の10月・12月はみんなでいきましょうという一大キャンペーンを

張っていただくんです。ですから、全国のＪＲの駅舎だとか、よく駅に行くといろいろなポスター張られていますね、ですから２年後の１０月から１２月にかけては、全国のＪＲの駅舎だとか、列車、あるいはＪＲさんが出すいろんな雑誌に、一斉に宮城県に行きましょうとＰＲして頂くことになっているんです。１０月に宣伝したってためですから、来年から宣伝はじめようということなんです。そして２０年の１０月は本番ですけれども、来年からお時間があったらどうぞということで、すこしデモンストレーション、事前ＰＲさせていただこうと来年から少しずつＰＲして、再来年は集中的にやろうということなんです。これをやって、この機会に今いった鹿島台商業の子供たちをはじめ、たんぼ湯治をやった方々が小規模にやっていたんですが、今度は全国的にＪＲの組織を利用して、全国から大崎に来ていただくというデェストネーションキャンペーンというのを始めることにしました。ですから、私はこの機会に大崎は後ほど申し上げますけれども全国で一番だといわれる宝がいっぱいあるので、ＪＲがもう上げ膳で宣伝していただくわけですから、この機会に大崎は大いに売ろうと、私達は、この地方は旧一市六町が合併して大崎市だということは私達はわかっていますよ。同じ大崎市民でもどこ一緒になって大崎市だかわからない人もまだいるんですから、大崎市民ですら大崎市になって大崎市長伊藤康志の名前で通知が来るようになったけれども、大崎市というのはどこからどこまでだべというのが、まだ８ヶ月なっても知ってない人もいますから。全国に行って大崎市からまいりましたといっても、大崎市ってどこですかと、ほとんどまだ知られていません。旧古川ですと新幹線の駅があったり、古川農業試験場があったり、古川商業が宣伝してくれたりして古川知っていると。鳴子温泉もわかっていると。それぞれの単品の町では知っているかもしれませんが、新しくなった大崎というのはどこですかと、皆さんもいろいろな新聞を見て、秋田県大仙市というのは、あら大仙市どこだったべ、と、旧大曲の町ですといわれるとああ花火のあつとこだなとわかるんですね。そういうふう新しい町名になりましたから、なんかで売らなければならないんですね。なんぼ市長丈夫だといわれだつて、毎日ＰＲして名刺たがいて歩くわけにはいきませんから、じゃ皆さんが日本一だと見て周知していただくのは、ＪＲさんが宣伝するこのときに、最大限使おうということでデェストネーションキャンペーン推進室というのを１１月７日に、そういうお祭り好きな人を集めて、役所にいて８時半から仕事をしないで、役所に来ることないから、まず大崎の宝を探して歩くと、そして大崎の宝をどんどん別なところに売るための商品化をやれということで、担当室長と担当の職員の方を配置をいたしました。この方々に役所の窓口になっていただきながら、さっき申し上げましたように市民の方々にもこの際、自分達の宝を探してもらおうと、その呼びかけをさせていただいたり、鹿島台商業の子供たちなんかと何回か打合せをして、みんなで宝を探してみますと、実はこの大崎には日本一というふうに認めていただけるものがいっぱいあるんです。ただ案外知られていないだけなんです。あるいはこれからもう少し磨きをかけると日本一になりそうだというのも日本一予備軍もいっぱいあります。これをまとめてこれだけ日本一がいっぱいありますよと、場合によっては世界一もありますよという形で、どんどんアピールをしようと思っております。その何といても日本一になる、売りやすいのは、鳴子の温泉なんですね、鳴子の温泉は昔から鳴子小唄だかにあるんですが、脚気川渡、かさ鳴子みたいに、この地方の方々は、どこの旅館が何にきくかというのは、長い湯治体験を通してわかっているんです。ところがそれをあまりよそに宣伝していなかったんです。今鳴子の温泉には９種類の泉質があるんですよ。日本中に１１種類の温泉の泉質があるうち、鳴子にだけ９種類あります。世界中には１３種類の

温泉の泉質があるんです。そのうち鳴子に9種類あるんですから、日本一を乗り越して鳴子温泉の泉質の数は世界一なんです。これをこの際大いにPRしよう。ところが全国有名100泉というのがありまして、そこでは鳴子温泉は9種類もあるこれだけの泉質がある温泉なのに、30番位にしかランクされていないんです。ちなみにあまり人の温泉のことは宣伝したくないんですが、第1位は群馬県の草津温泉、で草津温泉というのは2年ほど前に、温泉の素を入れてごまかしたとか、騒いだりなんかしたことがあるんですが、偽装温泉ですね、あるいは天然かけ流し温泉といっても、実際は濾過したとか、で物議をかましたんですが、それでも今のところ、今年の番付では、草津温泉が第1位なんです。第2位は大分県の湯布院、3番目が熊本県の黒川温泉、で私も温泉大好きですから、いろんな温泉に行きますけれども、そういう登別にしても、別府にしても箱根にしても有名な温泉がいっぱいありますけれども、温泉を比べてみればひいき目だけでなく、自分の感じからするとやっぱり鳴子の温泉は1番だと思えますよ。ただ30番位にしかランクされていない。ただ鳴子にご案内するとですね、どうでしたかという温泉はいいですね、温泉はとほとどいうんです。でも食べ物あまりよくないよねとか、従業員のサービスが悪いよねとか、お客さんがいってもなっさきたという感じではないんですけれども、わざわざお出でいただいてありがとうございますというもてなしの気持ちがないということなんです。そういうお客さんをもてなす気持ちがどうもない。それとここはいい食材がいっぱいと、あるいはいいお酒がいっぱいと、ところがいい食材、いいお酒を出すと儲からないと、食いましされると、ということなのかどうかあるいは飲みましされると思うかどうか、銘柄の定かでない安いよそのお酒だとか、出どこのわからない米だとか、そういうのを使っていますから、全国から来る方からすると、なんか宮城県に来ればササニシキやひとめぼれが食べられるんだんと思ってくると、岩手県の米ですとか、秋田県の米ですとか、あるいは仙台牛が食べられるのかなと思ったら、米沢牛が出てきたりですね、どうも地元の地域あげての持てなしになっていない。そういうこともあって、なかなかいいものがいっぱいあるけれども、残念ながら30位に甘んじているんです。これをなんとか将来1番になるように持っていきたいと思っています。でこれは完全に日本一ですね。鳴子から申しますと、さつき蕪栗沼をいいましたが、潟沼というのがあります。これは酸性湖で日本一、世界第2位なんです。鬼首に間欠泉がありますけれども、今吹上する湯ですけれども、これも日本一といわれております。岩出山は有備館というのがあるんですが、ここは実在する日本最古の学問所ということになっております。ですから、そういう文化歴史を真剣に勉強している方々からすると、非常に興味あるところなんです。岩出山の池月に道の駅ができました。あら伊達な道の駅ということなんです、これが今、もう東北一の賑わいなんです。お客様が270万人で今年300万人越すだろうといわれております。売上が10億円なるだろうとこういわれております。東北一でまもなく日本一になるだろうといわれております。鳴子に来るお客様が200万人で、道の駅周辺に来るお客様が300万人ですから、前は鳴子のついでに来ていたお客様が、今わざわざ道の駅に来てついでに、鳴子に行くという逆コースになったんです。で大崎市ではありませんけれども、小野田にあります土産センターという薬菜山の麓に薬師の湯の所に農家の方々の農産直売所があるんですね。これも大変な賑わいで、今80万人近くがここに来てるといわれているんですが、そこも昔は温泉に来たついでにということだったのが、わざわざ仙台だとか県内から来ると。特に岩出山の道の駅は今東北一でまもなく日本一になるうということになっています。田尻の渡り鳥の数もこれまた日本一ということで、古川には

私達があまり気づかないでいますけれども、お米の研究からするとこれまた日本一の古川農業試験場があります。お米の研究からすると日本中から、世界中から来ているんですね。でそれに感謝しようということで、実は新幹線ができたときに古川の駅前に農婦の像というのがあったんです。これはその当時の農協青年部の方々や婦人部の方々が2合ずつ持ち寄りまして、ササニシキというお米がこの地域で誕生したことによって、大崎地方の農家は非常に豊になったと感謝して、これからもササニシキを感謝しながら、ササニシキを上回るようないいお米を作っていこうと、ササニシキ顕彰碑というのを作ったんです。そのことに佐藤忠良先生がいき感じて、農婦の像、農家のお母さんと子供が手をつないだ銅像なんです、それを玄関に提供していただいたんですが、旧古川市民も、大崎市民もそのササニシキ顕彰碑が駅前にあることも、その農婦の像がそういういきさつであったことも、ほとんど風化して忘れられてるくらい身近にある試験場から、それだけ一時期はササコシ戦争といわれるような日本一を代表するようなお米ができた。通の方からいわせると、日本のお米の中で、品種の中で、本当に美味しいのはササニシキだというお米専門家からは評価されているんですが、なかなか作りにくいということもあって、栽培する方が少なくなってきたんですが、今富永の鈴木久義君達を中心になって、ササニシキ研究会を作ってもう一度ササニシキを復権しようと、それとさっき申し上げました蕪栗沼周辺で、冬水田んぼというのをやっているんですね。この栽培方式にササニシキが非常に適していると、ということで、古川試験場と専門にやっていると岩淵先生達が、ササニシキを復権しようということが又でています。これを是非大崎のブランドにしていこうと、名物にしていこうということに、そのマガンを大事にしたら1俵1万2千や3千円のご時世に、5万円の値が付くということは、これを田尻の蕪栗地方だけの栽培形態にするのはもったいないから、どんどん広げよう、大崎全体に広げようということ、折角大崎市になったわけですから、やろうと。これもまさに日本一の商標ついていることなんです。古川には日本で最初に水道事業がはいつたみたいに、ここは安全で美味しい水が供給されているというように、非常にこの地には日本一だとか、日本最古だとかいっぱいあります。これを是非先ほど申し上げましたようにこの際大いに磨きをかけていこうと、そういうことを呼びかけましたらいろんなところから、実はおらほにはこういう宝もありますということで、いっぱい出てきました。で、今さっきも申し上げましたようにそれらをシリーズごとに統一していこうということになったんですが、実は私もすぐ近くにいて知らなかったんですが、田尻に昔、金山があったんですね。わかっていますか。田尻史に載っているんですよ。再来年平泉が世界遺産に登録されます。そうすると世界中から平泉にと来ますよね。平泉に来たお客さんをこっちに引っ張り込むためには、平泉を見たら帰りは鳴子にお泊まり下さい。というような形で泊めるためには、平泉とも連携とりたいと思っているんですが、平泉といえば義経、あるいは金売吉次となりますね。この大崎には義経があるコースも義経に交わる場所もいっぱいあります。それと田尻の金山があったということも、それもいろんな各町である宝もみんな出して下さい。埋もれている宝を出して下さいといったら、私達の認識からすると、金売吉次はおそらく涌谷の砂金を売ったんでねがと私達なんか思っていたんですが、もしかしたら田尻から出た金を売ったかもしれない。ということですね。もしかしたら物語にできるかもしれない。ということもありますね。それも埋もれてしまっているかもしれない。

岩出山に行っている話をして、実は私も市長になりましたら、岩出山の政宗公祭りと古川の秋の大名祭りに市長是非で下さいと、残念ながら市長さんに耐えられる馬はまだないん

で、馬と鞍は用意できませんでしたが、是非本陣にお座り下さい。先陣であるって下さいということで、来年は大きな馬用意しますからということで、北海道からでも馬を用意してもらおうと思っているんですが、岩出山の時ジョークも含めてクレーム付けたんです。政宗公祭りは岩出山にとっては、一大お祭りだろうけれども、大崎市になったんだから名前変えてけらいんといったのね。そうしたら、私達は大崎市というのは、これはルーツをたどれば、大崎氏、これが大崎耕土となっているんだから、大崎氏は伊達政宗に滅ぼされたんだから、岩出山にとっては伊達政宗が入府したから、名君だがもじゃねっげとも、他の大崎からすれば敵のお殿様をなんでお祭りに参加しねぐねんだと、これはご先祖様に申し訳が立たないということも含めて、大崎の皆さんは、私も少し抵抗感があったから、結構あっと思うよと。これは単なる岩出山のお祭りではなくて、大崎全体のお祭りにして、全国からお客様を招き入れるのには、名称も含めて、規模もかえたらいいんでねかと。たとえば、古川の大名行列と夏に岩出山のお祭りと秋に古川の大名行列、ふたつやるよりも、隔年実施で両方合わせて、まさに日本一の歴史絵巻行列をするようなことで、やりませんかというんな話しをしていたときに、いや市長伊達政宗に抵抗あんだごったら、実はという話しで、昔たった40日ですよ徳川家康が岩出山にいたことがあるんですよ。これはほとんど表に出ていない、岩出山の人たちは知っているんですよ。岩出山のほんの一部の人は、でなんで徳川家康がいたかという、当時豊臣秀吉の時代に日本統一をやるときに、東北地方の武士は最後まで抵抗していたんですね。その中で奥州仕置きをするときに、国の区域の作り直しをするときに、徳川家康が岩出山に入って、この辺の町割りをしたんですね。40日。ですから探せば徳川家康に係わる歴史絵巻が残っているはずなんです。もしかしたら徳川家康の忘れ形見がいっかもしれない。ということも含めて岩出山の皆さん、探して下さいとお願いをしているんですが、これだって、今までは岩出山の政宗公祭りに私達は、物言う立場でありませんでしたけれども、合併したことによって、一緒に岩出山のお祭りだとか、田尻のことをやれます。同じように鳴子の鬼首で肉祭り、鬼首カーニバルというのをやっています。田尻の加護坊山でも肉祭りをやっています。やるんだったら例えば1年ごとに交互にして、大々的な日本一の焼き肉野外パーティーをやりませんかということをお話ししたんです。どうせやるなら、この地域の方々が交流するだけでなく、全国から皆さんが集まっていただくだけの、それだけの食材があります。これだけの素材があることを探し方しています。最近、そのいろんなことを各地域から報告いただいているんですが、これも全国の日本酒党の方が、ブームになっているお酒がこの大崎にあるんですよ。三本木に愛宕の松というのがありますね。戸部さんで売ってるそうですが、つい二昔前ぐらいまでですかね、家で飲むんだったらともかく人の家さ持っていくのに、贈答用に持っていくときに、見龍と愛宕の松持っていくとなんか、形見狭いんでねがなと思われた時代が二昔前ぐらいまであったんですよ。その時代は灘だとか伏見の酒を持っていった方が、いかにもいい酒を持って来た、あるいは持てなしもしたといわれた時代があったんですよ。必ずしも上位の酒ではなかったんです、ランクが。ところが見龍だって会社も変わりましたけれども、湖水というこれはもう大変な酒になっていますよ。で、実は愛宕の松の酒屋さんで、いま伯楽星という酒を出しているんです。愛宕の松で出してもそのイメージがあるから、なかなか売れにくいべと、その2代目の社長さんが、これが今三本木で手に入らない、大崎の料理屋さんで、出しているのは間違いなく商工会議所の裏の中鉢というところに若干ストックしているのがあります。あるいは古川の酒屋さんで、市役所の近くのヨシキ酒屋さんというところと工業学校のちょっと反対側、全国のお酒を扱って

いるところで、予約の窓口になっているんです。現物はほとんどありませんけれども。頼むと予約して取り寄せてくれるというところがあるぐらいで、ほとんどないんです。引き合いがどんどん来るんです。市役所にも来るんですよ。伯楽星手に入りませんか。どうやったら手に入るんですかと、なんで日本でも大変ブームになっているかといいますと、JALの国際便のファーストクラスに出される日本酒になっているんです。ここの若社長さんがJALにどんどん売り込みして、1週間に1回くらい売り込んで、この酒の素晴らしいところということで、一番旬の状況でそれをお客さんに提供しようというやり方をしている。それが取り入れられてJALの国際便のしかもエコノミーでなくてファーストクラスに出される。ですから、ファーストクラスのお客さんですから、海外のお客さんですとか、日本のどっかの大手の社長さんだとか、食大使だとか、これうまい、この酒ほしいということで、大崎市三本木に電話が来るんですよ。世界のトップクラスの人たちが飲む酒だということで、今ブームになっているみたいで、この地域にはいろんなそういう宝が、熱い宝になっているものがあったり、これから磨きをかけると日本一の宝になる素材がいっぱいありますので、この機会に是非みんなで宝さがしをやりようこう思っております。そういうのを持ち寄って大崎これだけ広くなって、いろんな素材がありますので、先ほど申し上げましたようにいろんな食材編、人物編、歴史編、地域資源編と大崎まるごと全国に売っていきこうと、海外に売っていきこうと、これからはどんどん人口が減っていきます。2・3日前に厚生労働省が発表した統計で、今1億2千7百万人ですが、50年後には8千9百万人に減っちゃうと。いうショッキングなことをいっていました。子供もだんだん減って行って、今人口の14%が15歳以下の子供なんです、8%まで減っちゃうと。ということで子供はどんどん減っちゃって、65歳以上の方が4割になっちゃうという数なんです。これがそのまま手をこまねいていきますと、介護や医療費にお金がかかって働く人がいなくなる、子供がいなくなるという形になってくると、家庭も地域も自治体も維持できなくなります。そういう意味では解消するためには外からこの大崎に来てもらう、一つは交流人口を増やすと、遊びに来てもらうと、あるいはよそから来てこの大崎に住んでもらうと、あるいはここに住んでいる方々が子供たちを生み育てられる環境を整えて、子供たちを生み育てるのは大崎が安全だという大崎市を創ろうと思っております。そのためには、今いじめだとか、治安が、物騒な事件が起きてますので、治安日本一の大崎を創ろうと、安全な大崎創ろうと、そしてお母さん方が子供たちを生み育てる環境、生みやすい、働きやすい環境日本一を目指そうと、そしてこの地域が温泉や食材も含めてここは住んでよし、働いてよし、そして育ててよし、訪れてよしという、日本一を目指そうということで、この大崎市が動きだしをしております。ちょっとそういう意味では、まちづくりを進めていく意味では、11月号の市政だよりに載せましたけれども、着任しまして金庫の中開けて見ましたら、市長になったら今までは県会議員でしたから、知事さんに頼んでどうぞ予算下さいとお願いしていたんですが、自分で自由に予算使えるなと思って、市長が使えるお金なんぼあるのかなと思って、市長室の金庫を覗いてみたら、借用書と請求書はいっぱいあるんですが、市長どうぞお使い下さいというお金はほとんどないんですね。これは自分でかせがねぐねということで、これは夢はいっぱいあるけれども、このままいけばこれは大変だと。でちょっと難しい話しなんです、大崎市は1年間に約6百億の一般会計、それと約6百億の特別会計、病院だとか、水道の特別会計があって1千2百億の仕事をやっております。それで仕事をやっているんですが、大崎市の各町から持ち寄った蓄え、貯金が45億ほどあったんですが、18年度の時に予算が組めないということ

で、切り崩して、今21億ぐらいしかないんです。で今21億でもあるだけいいんでねがといわれるかもしれませんが、17年度決算が、これは私が使ったのではないですよ、全町の時代に使った決算が、持ち寄ってこの間報告がありました。17年度14億・15億の赤字、そして病院が14億の赤字と、すでに17億の持ち出しをしてましたから、結果的には30億の実質的な赤字、18年度も病院は約20億の赤字になってしまうだろうといわれてますから、このままいきますと病院1年分の赤字で、今ある大崎市の各町から持ち寄った基金だとか、現金だとか、蓄えが1年で吹っ飛ぶ位しかないんです。そうすると後は借金していくしかないということですので、これは一度いろんな計画建てたやつを財政状況をまずよくして、健全な状況にしてから、何年にどういうのを造るかと言うことを、これをもう一度計画を作り直しをしましょうということで、このまま合併したからばばんと合併の時にこれもやります、あれもやりますといったのを一度合併の時に絵に描いたからやりましょうということで、後で借金で首まわらなくなったら困るということで、もう一度健全な状況を点検しましょうということで、少し憎まれながら今いったように、夢が一杯あるものに投資するためには、多少将来に投資するための余裕を持っておかなければならないということで、昨日で終わりました議会でも、どうやるかということをお話しさせていただきました。そういう中で来年財政計画をしっかりとてて向こう10年間どういうものを大崎市を創るかという総合計画を皆さんにお示しをさせていただきことになっております。その時に多少10年間で創りますと言ったいろんな事業の時期が少し後にずれるとか、7つ各町に創ろうと言ったのを例えば郡単位に統合して、7つ創らないで3つにするとか、あるいは役所が創るのではなくて、民間にやってもらうとか、そういう手法を考えながら少ない予算で、効果が市民サービスが低下しないように、是非大崎市のまちづくりをやろうと思っておりますので、是非ご理解をいただければと思っております。そういう中で特に高齢者の方々からすると、病院問題でなんだか市長今度は大崎市の本院と岩出山の分院、建てないことにしたんだそうですねということで、心配をいただいておりますが、来年から岩出山の病院建てると、再来年から旧古川の市立病院を建てるという計画ありまして、そして今いったように病院が毎年20億単位で赤字になっていくと、本体の大崎市が赤字状態で、これはやっぱり出血を止めることが大切だと、本体を丈夫にすると、病院も赤字体質から赤字を少なくする体質にすると、そしてこれだけの大きな病院だから、県だとか国にも少し加わってもらって、県立病院的な規模にしたらいいいんじゃないかと、どうせやるならば将来的には、ドクターヘリ構想ということがありますが、遠方の方々がスピーディにこれるためのドクターヘリ構想だとか、ドクターカー構想なども入れて、立派な病院を造ろうと言うことで、少し県や国と相談して、お金を出していただくことの段取りも含めて、少し数年間待っていただくということにしていました。しかし全ては10年間の中で、多少数年の前後はありましかれども、もっといい形で計画を実行しようと思っておりますので、是非ご支援をいただきたいと思っております。

後圃場整備もずっと出来上がってきました。この地域が農村地域として生産力が上がると、あるいは農村の持っております魅力、そういうものがますます向上するためにこの地域の生産基盤づくり、圃場整備づくり、その上にたつ農地・水・環境向上事業も是非皆さんの力で成功させていただいて、この馬放が農業やる人にとっても、やらない人にとっても、魅力ある地域になりますように是非お力を貸していただきたいと思っております。食事の用意がでたようでありますので、私からのお話は以上で終わりにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。